

われわれの病院・診療所は
働くひとびとの医療機関である



船橋二和病院ホームページアドレス
http://www.futawa-hp.jp



船橋二和病院
船橋二和病院健康友の会
〒274-0805
千葉県船橋市二和東5-1-1
TEL 047(448)7111(病院)
TEL 047(449)4417(健康友の会)
発行責任者 宮野 暁
月一回発行 1部 50円

初期研修医の 未来のカルテ



初期研修医の多職種オリエンテーション

今年度入職の研修医の皆さん5名と、友の会とのオリエンテーションが4月22日(金)に行われました。
参加者の自己紹介の後、千葉民医連の始まり、友の会になる前の組織から、今までの活動を岡本事務局長より紹介され、皆さんで感想交流を行い、医師を目指したきっかけやその時のエピソード、これからどのような医療活動を行いたいかを話してもらいました。



戸田さや香医師

戸田医師 医師になろうと思っただけは東日本大震災です。当時中学2年生でしたが、自分は何もすることができないという強い無力感を感じ、人の役に立てる仕事をしたいと思いました。

民医連との出会いは高校生医師体験です。大学に入る時に経済的理由から奨学生となり、6年間奨学生生活をしてきました。病気をみるだけでなく患者さんの生活背景まで考えること、社会的に弱い立場にいる方の意見を代弁し、社会に訴えていくことの大切さを学んできました。



平城翔大医師

平城医師 僕も東日本大震災ですが、僕が最初にやりたいと思っていたのは厚労省の医系技官です。臨床医になりたくて医学部にすすんだわけではありませ

ん。東日本大震災の時は高校2年生です。その時当時思ったことは、皆さんとは視点が変わって、何でもな

アウトリーチをして社会に対して声を上げることがやっていきたいと思っています。

この量の放射線でパニックになっているらどうか？中心部はそこにいると生命が危険な量でしたが、原発のまわりの放射線量は直ちに避難すべき量だったのか？と僕は今でも疑問に思っています。避難したことになんか変わった人もいますし、本当にパニックだったんだらうなど実感しています。その中でリスクコミュニケーションという学問もやりました。一度、社会学部に入学しましたが、改めて医学部を受験し、放射線の関係で長崎の大学に入り、リスクコミュニケーションを習

てきました。この病院では現場に入って働くのは当然なんです。最終的には公衆衛生的視点からアプローチしたいというのが僕の視点です。



中本 龍医師

中本医師 医師になろうというきっかけも特になく、高校の理系か文系を決めるとなった時に、人生を深く考えたわけではなく、何となくカッコ良さそうだなと思って医学部に決めま

した。本当にその程度の気持ちでした。その後面接で自分の医師像を考えたときに、僕は小さい頃、喘息・アトピーがあつてずっと罹りつづけた先生がいて、その先生がいろいろ医師を知らず、他はドラマの世界でいていて喘息なども落ち着いて高校生ぐらいになって罹った時に、自分の成長を喜んでくれた。その先生みたいな人の人生に長く関われるのが医師の一番の魅力なのかなと感じました。自分でも将来医師になるにあたって出来る限り病気持ちじゃなくて人生的なところに関わってあげたいというのがあります。これから研修していくにあたって、病気持ち以外、背景やどういふことを考えて過ごしているのか等、そういう部分を話してコミュニケーションをとれたらいいかなと考えています。



岸村美有医師

岸村医師 私が医師を目指したきっかけは、幼稚園の頃に喘息が酷く、よく発作とかで救急で運ばれた。夜間救急に罹っていた。その時の罹りつづけた先生の顔を見るだけで、安心感が湧いて小さいながら憧れをもっていました。なんとなく医師を目指していましたが、中学になって進路を考えた時に、医療の面から人を助けられるような人になりたいと思い、私はまず安心感を患者さんに与えられるような医師になりたいなと思っています。私の母が地域包括支援センターで働いていて、母から仕事の話を聞いており、理解のない病院だと入院期間が延びると診療点数が下がるから、退院後の生活が整っていないと取り敢えず退院させちゃえ！。という話を聞いており、患者さんを一番に考える医師になろうと思つて。見学した時に患者さんの生活を一番考えていたので、この病院で働きたいと思いました。



宍田智大医師

宍田医師 父親が小児科医として働いていて、物心つく前から父の職業のことは知っていました。仕事をみる機会もあるので、医師という職業が身近なものでした。その為職業の選択の一つに入っていて、熟慮した末、医学部を目指しました。どんな医師になりたいかという点、自分は出身が狭いコミュニティの中にいて、同級生の中に小児科の

顕微鏡

この6月4日、岸田政権の成立から8カ月が経ちました。いのちと暮らし、平和、民主主義をまもる視点から岸田政治を検証します▼岸田政権は、安倍・菅政治をひきつづけることとどまらず、改憲や軍拡でより危険な道です。岸田首相は9条改憲への強い執念を表明。改憲に向けた体制整備として自民党の「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」に改称し、

本部長などに改憲右翼団体と一心同体の「日本会議国会議員懇談会」の会長を据えています▼岸田首相は、憲法9条に自衛隊を明記するなど改憲4項目を「今こそ取り組まなければならない課題」「改憲は歴史的な変化」と、参院選を節目に改憲を一挙にすすめるようとしています▼岸田首相は、ロシアによるウクライナ侵略の事態に乗じて日本国内の米軍基地に核兵器を配備し、日本が管理・運営を共同でおこなう「核共有」の議論を始めています▼岸田首相は、昨年12月の臨時国会で、歴代の政権が憲法違反としていた「他国に攻撃的な脅威を与える兵器」一敵基地攻撃能力の保有を検討すると表明。安保法制のもとで日本が攻撃されていなくても、米軍が戦争を始めたら戦争に巻き込まれる危険な事態も▼いっぽう、社会保障の連続改善では、公的年金削減、諸物価の大幅引き上げ、75歳以上の医療費窓口負担の2割化、地域医療構想による病床削減など悪政が目白押しです▼来たる参院選で「危険で冷たい政治」を変え、(H)

いき友の会活動

自分サイズの帽子づくりに挑戦

・穴地区
・三咲地区
・大



出来上がります。

初日は16名、二日目は20名もの参加があり、スタッフはうれしい反面対応できるか不安もありましたが、初参加者7名とも打ち解けみんな楽しく作る事ができました。参加者の中には孫に作ってあげたい！と娘さんと一緒に参加してお孫さんサイズのかわいい帽子ができたので嬉しかったです。それぞれ完成した帽子を嬉しそうに被り感謝する様子を見ることができ、スタッフ一同ホッ

4月14日、20日の両日、船橋民商の会議室をお借りして開催しました。大穴三咲地区では今までも小物づくりを楽しんできました。今回は講師に川添さんをお迎えし、これからの季節に活躍する自分サイズの帽子づくりに挑戦しました。帽子の後ろにゴムや紐を取り付けることで頭にフィットした自分サイズの帽子が



お孫さんサイズのかわいい帽子ができたので嬉しかったです。それぞれ完成した帽子を嬉しそうに被り感謝する様子を見ることができ、スタッフ一同ホッ

私のアイドル

病院医事課の松島昌信さん、史さん
夫妻の次男 誉(ほまれ)くん(6カ月)

兄妹に続く3人兄弟の末っ子です。最近良く笑う様になり又お兄ちゃんの小さな時と顔が似て来て懐かしい感じもしています。



としました。今年の夏は自分サイズの帽子をかぶって出かけましょうね！
木崎ひろみ

いつでも元氣読者会とゆるゆる体操

・根地区
・高地区



アップ！役員さんが声掛け係を交代しながらリードします。

今回のメインはいつでも元氣4月号の感想です。今号も魅力的な記事ばかり。いろいろと感想は出されましたが一番興味を引いたのはやはり医療についての記事です。

参加者の中には、二和病院を紹介され命拾いした方も。脳トレは変則しりとりで笑いながら免疫力アップです。今回参加できなかった方にいつでも元氣誌をお届けしたら「価値ある本だから取ります」と購読の申し込みがありました。読者の輪が広がり、さらに元氣の出る読者会としていきたいです。

安藤恵美子

栗野(あわの)の森散策

・谷地区
・鎌地区



お天気も良くハイキング日和。新鎌ヶ谷駅から十分程で鎌ヶ谷市制記念公園に到着します。そこから歩いて二、三分で森の入り口です。マンリヨウ、ハナイカダ、コナラ、キンラン等々多くの植物、木々が自生し、深い森となっています。森林浴ができ、癒しの時を味わうことができました。参加者は11名。多くの方に参加してもらい楽しく過ごせました。

並木美代子

なるべく整形外科的な雑談(21)

病院や診療所に限らず、様々な職場で、「怒りのコントロール」が話題になることが多いようです。書店などにも、怒らないための方法論的なタイトルの書籍が所狭しと並んでいます。アドラー(1870~1937、オーストリア出身の精神科医、心理学者)は言いました。「怒りは、人と人を分断する感情である」と。大声で怒鳴り散らしたり、人を責め立てたりする現場を目にすることがあります。つかつかとなつて怒鳴ってしまった、というのは本当なのでしょう。そして、怒りのコントロールとは、最終的な外部への怒りの表出を止めるという、言わば小手先だけのことなのでしょう。アドラーの方法論は、物事を原因論でなく、目的論的にとらえること、怒りの表出には何か目的があると考えることができます。多くの場合、それは、怒りによる他者や状況のコントロールと見えたりします。即ち、怒りの表出は、コミュニケーションの手段ではあるが、極めて安直で、極めて未熟で、リスクの大きなものと言えるでしょう。怒った方は、一時的に思い通りに事が運ぶのは本当なのでしょう。

侵略戦争抗議の二和駅頭宣伝

4月21日、運営委員会を終えた友の会役員一同で駅頭宣伝を行いました。『戦争反対』のカードを掲げてハンドマイクで訴えるといったシンプルな宣伝でしたが、行く人、ドライバーからも注目を集め大成功でした。通りがかる高校生たちから「ロシアが悪いとかよくわからないんだけど」「いやどっちが悪いのかわからないけど戦争は反対だよね」といった話し声も聞こえてきます。



耳目を集め議論を呼び起す、まさしく行動が世論を作っている体験です。今もなお武力侵攻により多くの命が奪われ続けている。9条で国が守れるのか。核武装しろ」といった暴論を吐く為政者もいますが、軍事力を背景にし

どして勝ったような気になるかも知れませんが、そう簡単に事は治まりません。他者を威圧し、銃口を向けて要求を通したようなものなので、人間関係は明らかに悪化します。多くの場合、怒った人自身も、後で気付いていることではないでしょうか。

では、どうすればよいのでしょうか。怒りをぶちまけるのではない、人間的なコミュニケーションをとるために心懸ければよいのではないのでしょうか。これは、怒りを我慢する、というのとは異なります。状況を変えたい、相手に自分の思いを伝えたい、という目的があつて怒りを表出しているのであれば、別にそんな手段に頼らずとも、穏やかに



た外交政策の失敗がこの惨劇の実態です。戦争と武力の放棄を謳った9条を背景にした平和的外交こそ本当に必要なものです。戦争政策に異を唱え反核平和運動に取り組む友の会活動、これをさらに広げていきたいと気持ちを新たにしている。今後は5月12日二和、19日三咲、21日二和で駅頭宣伝を予定しています。

組織部 近藤純



話をして気持ちを伝えればよいのだということを理解し、実践する必要があるでしょう。そうでないと、怒りだけが伝わり、自分の意図することが伝わらない可能性があります。このことは、職場でも、学校でも、家庭でも同じと考えられます。

よく、怒ると叱るは違うのだ、と、叱ることを肯定する人も多いようですが、果たしてそうでしょうか。ぶち切れて(少なくとも相手側からはそう見える)、恐怖感を与えて相手を操作しようとする態度に何らかわりはありません。そんな態度で迫ってくる人を尊敬も信頼もできるはずがない。即ち、何も学ぶことはできないのです。自分を信じてくれていると感じられる人の言葉だけが、真に心に響くのではないのでしょうか。(次号へ続く)

年会費納入のお願い

前年の6月にご入会いただいた方は、年会費納入の時期です。また、それ以前にご入会の方で、年会費をお支払いいただけていない方も、年会費の納入をお願いいたします。

・ふたわ診療所友の会コーナー
(月)金/10時~12時
友の会事務所
(月)金/10時~16時
で受け付けます。

お問い合わせは友の会事務所まで。納入の際は会員証をお持ちください。

また、お近くの友の会役員がお訪ねする場合がありますので、よろしく協力ください。
友の会事務所
☎047-449-4417